



人権教育学習指導案集

～平成28年度の実践～

埼玉県教育局市町村支援部人権教育課

刊行に当たって

「人権教育学習指導案集～平成28年度の実践～」は、平成28年度に文部科学省・埼玉県教育委員会の委託を受けた人権教育総合推進地域及び人権教育研究指定校と、県内で優れた実践研究に取り組まれた学校の人権教育学習指導案をもとに当課が編集したものです。今年度は総合推進地域から6つ、研究指定校から3つ、当課で行っている男女平等教育推進委員会から1つの学習指導案を掲載しました。この学習指導案集には、下記の学校が研究主題や人権教育上の課題を解決するために、人権教育上のねらい・視点・配慮を設定し、人権に関する知的理解を深めるとともに、人権感覚を育成するための指導法の工夫改善に取り組まれた多くの実践が掲載されております。

当課が作成した「人権感覚育成プログラム(学校教育編)」(平成20年3月)、「人権感覚育成プログラム(社会教育編)」(平成21年3月)、「人権教育資料～指導実践の手引～」(平成22年3月)、「人権感覚育成プログラム増補版(学校教育編)」(平成25年3月)につきましては、各学校の御理解と御協力により、多くの学校で活用していただいております。各教科や道徳、特別活動、総合的な学習の時間等で、人権教育の視点に基づいた授業を実践する際に本書と併せて活用し、各校の実態に応じて人権教育を積極的に推進していただきますことを期待しております。

結びに、本書の刊行にあたり、学習指導案を御提供いただきました各学校及び関係各位に対しまして、厚くお礼を申し上げます。

平成29年3月

埼玉県教育局市町村支援部人権教育課長
吉野 雅彦

人権教育学習指導案の提供校

小学校	埼玉県日高市立高麗川小学校 埼玉県伊奈町立小室小学校 埼玉県横瀬町立横瀬小学校 埼玉県長瀬町立長瀬第一小学校 埼玉県飯能市立富士見小学校
中学校	埼玉県日高市立高麗川中学校 埼玉県伊奈町立南中学校 埼玉県横瀬町立横瀬中学校
高等学校	埼玉県立伊奈学園総合高等学校

目 次

「人権教育上のねらい・視点・配慮」の指導案への記入について	1
学習指導案の記述例と留意点	2
1 小学校第1学年 音楽科学習指導案 題材名 「ようすを おもいうかべよう」	4
2 小学校第3学年 社会科学習指導案 単元名 「人々の仕事」	9
3 小学校第4学年 国語科学習指導案 単元名 「物語を読んで考えたことを話し合おう」	14
4 小学校第5学年 算数科学習指導案 単元名 「面積の求め方を考えよう」	19
5 小学校第6学年 社会科学習指導案 単元名 「日本の歴史 世界に歩み出した日本」	24
6 小学校特別支援学級 生活単元学習指導案 単元名 「秋祭りをしよう」	29
7 中学校第1学年 道徳学習指導案 主題名 「公正な態度」	34
8 中学校第2学年 数学科学習指導案 単元名 「一次関数の利用」	39
9 中学校第3学年 社会科学習指導案 単元名 「ちがいのちがい」(個人の尊重と日本国憲法)	44
10 高等学校第3学年 公民科学習指導案 単元名 「現代の家族とその課題」	48

「人権教育上のねらい・視点・配慮」の指導案への記入について

学習指導案は「人権教育上のねらい・視点・配慮」の内容項目を設け、次のとおり作成しています。

<p>人権教育上のねらい</p>	<p>学校教育目標や人権教育目標を達成するために、各教科等において人権教育を推進していく上で、人権課題別に各単元や一単位時間の中で目指すこと。</p> <p>()内に人権課題を明示する。</p> <p>例(女性)(子供)(障害のある人)(高齢者)(同和問題)</p> <p>(普遍的な課題「生命尊重」)</p> <p>(様々な人権問題「プライバシーの侵害等」)</p>
<p>人権教育上の視点</p>	<p>「人権教育上のねらい」の達成を目指し「法の下での平等」、「個人の尊重」といった人権一般の普遍的な課題に対する取組や具体的な個別の人権課題に対する取組の中で、児童生徒に身に付けさせたい知識、価値・態度、技能のこと。</p> <p>【知識】<例></p> <p>各人権課題に関する正しい知識</p> <p>情報を的確に収集し、合理的に理解し、活用する力</p> <p>豊かな感性や想像力、共感的に理解する力</p> <p>【価値・態度】<例></p> <p>人間としての尊厳や自尊感情を大切にする態度</p> <p>異なる文化を受容したり、違いを認めたりする態度</p> <p>正義と公正を尊ぶ態度</p> <p>課題解決に向けた意欲・実践的な態度</p> <p>【技能】<例></p> <p>非攻撃的自己主張の技能</p> <p>コミュニケーションの技能</p> <p>人間関係を調整する技能</p> <p>解決に向けた実践力やそのための技能</p>
<p>人権教育上の配慮</p>	<p>「人権教育上の視点」に示した知識、価値・態度、技能を身に付けさせるための教師による具体的な手立て(指示、説明、資料提示など)のこと。具体的な手立てを「 」などの記号で明示し、記入する。</p> <p><u>「わかりやすくゆっくり話す」や「友達の話をよく聞く」等の学習一般の配慮事項を記入するものではない。</u></p>

学習指導案の記述例と留意点「道徳学習指導案の例」

道徳学習指導案			
1	主題名	
2	資料名	
3	主題設定の理由	(1) ねらいとする道徳的価値について (2) 児童生徒の実態について (3) 資料について	
4	ねらい。	
5	人権教育上のねらい(子供)	将来、人権を保障する共生社会の担い手となれるよう、自 他を尊重する精神を養う。	
6	人権教育上の視点	(1) 「児童の権利に関する条約」に保障された子供の権利に ついて知識を持つとともに、いじめなど身の周りの問題の 不当性を理解する。 (知識) (2) 互いに伝え合い、わかり合うためのコミュニケーション の能力を高める。 (技能)	
7	展 開	人権教育上の配慮	
	段階	学習活動	主な発問と予想される 児童生徒の反応
	1
	2 「条約」と「いじめ 発生件数」の資料を 提示し、現状を認識 させる。(知識)
	3
	4 アサーティブトレ ーニングを取り入れ、 相互尊重のコミュ ニケーションスタイル を学ばせる。(技能)
	5
8	評 価		

ポイント 1

1 }
2 }
3 } ポイント 1
4 }
7 }
8 }

ポイント 2
ポイント 3

ポイント 2
ポイント 4

ポイント 2
ポイント 5

ポイント 5

ポイント 5

人権教育上のねらい }
人権教育上の視点 } ポイント 6
人権教育上の配慮 }

- ・ポイント１・・・学習指導案は、各教科、道徳、特別活動、外国語活動、総合的な学習の時間の様式を原則とし、学習指導要領を基に記述する。

指導案様式は以下の資料を参照

- 「埼玉県小・中学校教育課程編成要領」(平成21年3月 埼玉県教育委員会)
- 「埼玉県小・中学校教育課程指導資料」(平成22年3月 埼玉県教育委員会)
- 「埼玉県小・中学校教育課程評価資料」(平成23年3月 埼玉県教育委員会)
- 「埼玉県小・中学校教育課程実践事例集」(平成24年3月 埼玉県教育委員会)
- 「学校体育必携」(埼玉県教育委員会)

- ・ポイント２・・・学習指導案に「人権教育上のねらい・視点・配慮」の項目を設けて記述する。

- | |
|----------------------------------|
| 5 人権教育上のねらい(子供)……()内に人権課題を明記する。 |
| 6 人権教育上の視点
人権教育上の配慮 |

- ・ポイント３・・・本単元(本時)で解決を目指す人権課題を「人権教育上のねらい」に明示する。

将来、人権を保障する共生社会の担い手となれるよう、自他を尊重する精神を養う。
--

- ・ポイント４・・・「人権教育上のねらい」に明示した人権課題を解決するために必要な知識、価値・態度、技能を「人権教育上の視点」として記述する。

- | |
|--|
| (1) 「児童の権利に関する条約」に保障された子供の権利について知識を持つとともに、いじめなど身の周りにある人権問題の不当性を理解する。(知識) |
| (2) 互いに伝え合い、わかり合うためのコミュニケーションの能力を高める。(技能) |

- ・ポイント５・・・「人権教育上の視点」に示した知識、価値・態度、技能を本時の展開の中で身に付けさせるための具体的な手立てを「人権教育上の配慮」として記述する。

「条約」と「いじめ発生件数」の資料を提示し、現状を認識させる。 アサーティブトレーニングを取り入れ、相互尊重のコミュニケーションスタイルを学ばせる。

- ・ポイント６・・・「人権教育上のねらい・視点・配慮」の整合がとれていること。
本時で扱う人権課題の解決に必要な知識、価値・態度、技能が身に付くような具体的な手立てがなされていることがはっきりと示されていることを確認する。

1 小学校第1学年 音楽科学習指導案

1 題材名 ようすを おもいうかべよう

2 題材設定の理由

(1) 学習指導要領との関係

本題材は、主に小学校学習指導要領 A 表現 歌唱イ「歌詞の表す情景や気持ちを想像したり、楽曲の気分を感じ取ったりし、思いをもって歌うこと。」歌唱ウ「自分の歌声及び発音に気を付けて歌うこと。」B 鑑賞ア「楽曲の気分を感じ取って聴くこと。」鑑賞ウ「楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲や演奏の楽しさに気付くこと。」に関連している。

(2) 題材にかかわる児童の実態

本学級は、音楽に合わせて体を動かしながら拍を感じたり、音楽を通して友達とのかかわりを楽しんだりしている児童が多い。歌唱指導では、歌うことが好きという児童の気持ちを大事にしてきた。その中で、魅力ある歌声で歌ってみたいという意欲を高め、自分の歌声を大切にしてくれいな歌声に気付いて歌うことを目標としている。しかし、友達に負けまいとして大きな声で歌ったり、リズムや音程があいまいなまま歌ったりする児童が見られる。

1学期学習した『うみ』では、海についての思い出や写真を見て、情景を思い浮かべながら歌えるように指導したところ、児童はゆったり揺れるような雰囲気の中で歌う工夫ができた。また、3拍子のリズム感や拍子感を味わうこともできた。

(3) 本題材における指導

本題材では、音楽を聴いて場面の様子を想像しながら楽曲の気分を感じ取ったり、音楽に合わせて体を動かしたりする活動を通して、鑑賞する楽しさを味わう。また、歌詞の表す様子や気持ちを想像し、思いをもって表情豊かに歌うことに焦点を当てた学習を進めていく。

本時は、歌詞を大切に歌唱活動していく。短い歌詞ではあるが、子供たちにも分かりやすい言葉で四季が表現されている。色や形、動きなど、様子を思い浮かべやすい言葉が多いため、歌詞の内容から歌い方の工夫へとつなげることができる。

一つ一つの言葉の発音に気を付けながら歌詞を読んだり、歌に合わせて体を動かしたりすることで、言葉のもつ語感を感じ取り、どんな様子を表しているのかを想像して表情豊かに歌うことができるようにしていく。

3 研究主題との関わり

本校では、研究主題を「まごころをつくしあい、みんな仲よく、たゆまず学び続ける児童の育成」として研究を進めている。

本時は、人権教育上のねらいを「コミュニケーション能力」におき、歌唱の学習を通して、友達の考え方や感じ方を認め合う中で、意見や気持ちを適切に伝え合い分かり合えるようにしていきたい。

【手立て】グループ学習を取り入れる。

どんな表現で歌いたいか考える際、グループ学習を取り入れる。自分の意見をもたせてから、交流することで自分の意見を深められるようにする。

【手立て】一人一人の考え方や感じ方を考えながら聞けるように、板書を工夫する。

教師が児童に共感をしながら、似ている考え方や感じ方を整理して板書する。普段から、自分の考えだけでなく、友達の意見にも耳を傾けることができるようにする。

【手立て】自分の意見を伝えることができるように、ワークシートを工夫する。

歌詞が書かれているワークシートを作成し、歌詞の近くに自由に記入できるようにする。

また、初めは一齐指導で春（1番）の表現を考えさせることで、グループ活動で自分の意見を伝えられるようにする。

4 題材の目標

楽曲の気分を感じ取りながら、想像豊かに聴いたり思いをもって表現したりする。
歌詞の表す様子や気持ちを想像して、楽曲の気分合った表現を工夫して歌う。

5 教材（ は本時で扱う教材）

「おどる こねこ」 アンダソン 作曲
「ひのまる」 高野辰之 作詞 / 岡野貞一 作曲
「はる なつ あき ふゆ」 三浦真理 作詞・作曲

6 [共通事項]について

(1) 本題材で主に扱う[共通事項]

ア（ア）音色 速度 旋律 強弱 拍の流れ （イ）反復

(2) [共通事項]と学習活動のかかわり

共通事項 ア（ア）	音色	速度	旋律	強弱	拍の流れ
（イ）			反復		
主な 学習活動	・バイオリンで表現されている猫の鳴き声を聴く。	・場面を想像して、変化をつけていく。	・主な旋律を口ずさむ。 ・旋律の特徴を感じ取って歌う。	・場面を想像して、変化をつけていく。	・フレーズごとに階名や「ラララ」などで模唱する。

7 題材の評価規準・評価計画（6時間扱い）

(1) 評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の 創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
想像したことや感じ取ったことを言葉や体を使って表すなどして、楽曲や演奏の楽しさに気付いて聴く学習に進んで取り組もうとしている。 歌詞の表す様子や気持ちを想像しながら歌う学習に進んで取り組もうとしている。	歌詞の表す様子や気持ちを想像して、発音や表現を工夫し、どのように歌うかについて思いをもっている。	旋律のまとまりや拍の流れを感じ取りながら、正しい音程やリズムで歌っている。 歌詞の表す様子や気持ちに合った表現で歌っている。	想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の楽しさや演奏のよさに気付いて聴いている。

(2) 題材における学習評価計画（ が本時）

時	音楽への 関心・意欲・態度	音楽表現の 創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
1・2				
3・4				
5・6				

6	<p>歌詞の表す様子や気持ちに合う表現の仕方を工夫し、表情豊かに歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループに分かれて、場面を分担し、四つの季節をつなげて歌う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に考えた表現の仕方を試しながら、歌詞の表す様子や気持ちに合う表現で歌うようにする。 <p>音楽表現の技能【演奏聴取】</p>
---	---	---

9 人権教育上のねらい（普遍的な課題「コミュニケーション能力」）

友達の考え方や感じ方を認め合う中で、意見や気持ちを適切に伝えることができるようにする。

10 人権教育上の視点

(1) 友達の考え方や感じ方を共感しながら聞く態度を育てる。(価値・態度)

(2) 自分の考え方や感じ方を伝えることができる。(技能)

11 本時の学習指導（5 / 6 時）

(1) 本時の目標

歌詞の表す様子を想像して、発音や表現を工夫し、どのように歌うかについて思いをもっている。
(音楽表現の創意工夫)

(2) 本時で主に扱う [共通事項] : 速度・強弱

(3) 展開

人権教育上の配慮

学習活動	学習内容(・)	指導上の留意点() 評価規準()
<p>1 常時活動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ゆかいに歩けば」を音楽に合わせて体を動かす。 ・今月の歌「もみじ」を歌う。 <p>2 既習曲「ひのまる」を歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌詞を大切にし、のびのびと歌う。 <p>3 学習のめあて、本時の活動を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時のめあてを知る。 ・教科書の挿絵から聞こえてきそうな音を想像する。 ・四季のイメージを発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・CDを聴いて、曲の感じをつかむ。 ・歌詞を声に出して読む。 <p>4 教材「はる なつ あき ふゆ」を歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音程や発音に気を付けて歌う。 ・まとまりを意識して歌う。 		<p>姿勢、声の出し方、表情など基本的な事項をひとつひとつ確認しながら進める。 音楽の授業の雰囲気作りをする。 姿勢の確認をする。</p> <p>本時の活動につなげられるように、きれいな歌声で歌詞を丁寧に歌うように助言する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>かしを たいせつにして うたおう</p> </div> <p>四季の挿絵を提示する。 一人一人のもっているイメージを出し合い、各季節のイメージをふくらませるようにする。 四季のイメージを発表したとき、教師が児童の意見を復唱する。また、意見に共感した児童がいるか尋ねる。(価値・態度)</p> <p>言葉のまとまりに注意しながら、声に出して読むようにする。</p> <p>息つぎの場所を確認させる。 「が」を柔らかく歌わせる。 旋律のまとまりを意識して歌わせる。</p>

<p>5 歌詞の様子や気持ちを思い浮かべて どんな表現で歌いたいか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全員で、1番を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・グループで、場面を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・グループで話し合ったことを、全員で共有する。 <p>6 1～4番を通して歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発音に気を付ける。 ・強弱や速度に変化を付けて歌う。 ・表現の仕方を工夫しながら歌う。 <p>7 振り返りをする。</p> <p>8 次時の予告を知る。</p>	<p>春(1番)は、一斉に考えてその後のグループ活動へつなげる。</p> <p>イメージをふくらませるための発問をする。</p> <p>体を動かしたり、強弱や速度も考えたりしていく。</p> <p>発表後は、児童に声をかけて一人一人の意見を大切にしている態度を示し、誰でも発言できる雰囲気を作る。(技能)</p> <p>体を動かしながら考えさせていく。</p> <p>強弱や速度を考えさせる。</p> <p>創歌詞の表す様子を想像して、発音や表現を工夫し、どのように歌うかについて思いをもっている。 【発言内容・表情観察・演奏聴取】</p> <p>他のグループから付け加え等あるか声をかけ、表現の仕方を工夫させていく。</p> <p>分かったこと、できたことを記入させる。</p> <p>グループに分かれて歌い、みんなで聴き合うことを伝える。</p>
--	--

12 板書計画

歌詞	挿絵	歌詞	挿絵	歌詞	挿絵	歌詞	挿絵	か かしを たいせつにして うたおう はる なつ あき ふゆ
	イ メ ー ジ		イ メ ー ジ		イ メ ー ジ		イ メ ー ジ	
	速 度		速 度		速 度		速 度	
	強 弱		強 弱		強 弱		強 弱	

2 小学校第3学年 社会科学習指導案

1 単元名 人々の仕事

2 小单元について

(1) 教材観

本単元は、小学校学習指導要領内容(2)をうけている。製品の生産・販売は、人々が生活をする上で欠かせないものである。商品は、生産者から販売者の手に流通を介してわたっていく。また、商品は周辺地域だけでなく、県外や国外からも輸送される。このような商品を介した他地域とのむすびつきが、人々の豊かな生活を支えている。

市内には、農業特産物が3つある。栗は、生産高が県内トップクラスである。品種改良も重ねられ、ブランド名がつけられているものもある。茶は、生産地としては比較的高緯度であるが、その寒さが特有の味わいを作り出す。うどは、穴を掘り、その中で日光に当てないように育てていく。高級食材として、旬の時期には、県外に出荷されている。

このように、市内の農産物は、評判高く市場に流通している。しかし、耕地面積や生産量の減少が、どの農業分野でも起こっている。その背景にあるのは、単一の農業生産では生計が成り立たないことや農業従事者の高齢化、後継者不足である。

(2) 児童観

人々の仕事を学習するにあたり、仕事を経験したことのない児童が仕事の大切さや必要性に関心をもつために、仕事には主に「つくる仕事」、「届ける仕事」、「売る仕事」があり、一つでもなくなると生活ができなくなることを学んでいる。また、スーパーマーケットの学習を通じて、人を集めたり、新鮮さを維持したりする工夫や消費者の要望に応えようとする努力について学び、どんな仕事にも工夫や努力がなされていることを学んでいる。

学習活動では、見学や体験から得る情報をもとにして具体的事象について出し合った後、その事象の背景にある意味や目的について話し合い、抽象的な概念を獲得してきた。見学活動では、見るべきことを事前に確認し、視点を明確にもって取り組んできた。スーパーの見学では、事象を見つめ、事象の秘められた意図(スーパーマーケットで働く人々の工夫)や願い(消費者の思いに応えたい)について、話し合いを通して考え、まとめる経験をしてきた。

このように、具体的・視覚的な内容から得たことを活用して、その背景にある目に見えにくい工夫や努力、目的について考え明らかにしてきた。

(3) 指導観

本時の学習では、農家の人々の仕事での学習を活用して、地域の農産物のよさを広めるためのキャッチコピーを作る活動を行う。動機づけとして、地域をPRするポスターのフレーズの部分を隠して、何が書かれているのか考えさせ関心を高める。その後、茶や栗、うどのよさをどんな言葉なら多くの人に広められるかという問題意識をもたせる。ただ言葉を考える活動にするのではなく、「地域の一員である自分たちにできること＝キャッチコピーを考えること」という点を意識させ、地域が抱える課題に関わる態度を育てていきたい。

3 単元の目標

地域の生産活動である特産物づくりの様子に興味をもち、進んで見学・調査することを通して、農家の仕事の特色について理解するとともに、農家の仕事の工夫を具体的に考え、文章などで表現することができる。

4 単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象につい ての知識・理解
地域の農家の仕事や特産物に興味・関心をもち、意欲的に見学・調査をしたり、調べたことをまとめたりしようとしている。	体験活動に基づく疑問から学習問題を見出し、計画を立てて追究し、農家の仕事の工夫や努力について思考・判断したことを文章や図などで適切に表現している。	特産物作りの工夫や努力について、体験・見学して気づいたことや、表や写真を活用して調べ、絵や図にまとめている。	農家の取組の工夫や努力によって市の農業が支えられ、特産物として市の内外とかがわっていることを理解している。

5 指導計画と評価計画（11時間扱い）

内の数字は時間を表す。 関：関心・意欲・態度 思：思考・判断・表現

< >内は評価の方法を表す。 技：観察・資料活用の技能 知：知識・理解

	学習活動 ・ 学習内容	評価の観点・内容・方法
つかむ	<p>同じ農産物でできた商品と手作りの品を比較する活動を通して学習問題を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 品物の色や香り、手触りをもとに市販の商品を見つけること。 同じ畑で作られたものなのに違いができたことをもとに学習問題を立てること。 <p>学習問題：農家では、農産物をつくるためにどのような工夫や努力をしているのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 体験や経験、知っていることをもとに学習問題の答えを予想すること。 	<p>関 体験に基づく複数の根拠をもとに自分なりの理由をもって、市販の製品を見つけようとしている。 <活動・発表></p> <p>思 体験や経験をもとに学習問題の答えを予想し、ノートに書いている。 <ノート></p>
調べる	<p>自分たちの体験活動から農家の仕事の様子を予想し、学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の体験活動や資料から、どんな仕事があるのか調べ、学習計画を立てること。 <p>農家に見学に行き、仕事内容や工夫や努力を聞き、調べたことを整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 農産物を作るには、一年中仕事があり、工夫や努力が必要なこと。 	<p>関 農家の一年間の仕事に興味をもち、進んで学習計画を立てようとしている。 <発言・ワークシート></p> <p>関 進んで質問したり、興味をもって話を聞いたりして意欲的に見学しようとしている。 <活動・質問></p> <p>技 見学したり話を聞いたりしたことを</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 製品化するには、手もみと機械があること。 	<p>もとに仕事の工夫や意味について整理してまとめている。〈ワークシート〉</p>
	<p>見学したことをもとに、農家の仕事にこめられた工夫や努力についてまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 農家の仕事を新聞形式でまとめること。 	<p>関 新聞づくりに意欲的に取り組んでいる。〈活動・新聞〉</p> <p>思 見学したことやワークシートに記述したことをもとに、農家の工夫や努力を自分の言葉で表現している。〈新聞〉</p>
	<p>農産物の出荷先を調べる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 作られた農産物は出荷まで保管され、注文を受けてから、全国に送られていること。 	<p>知 農産物の販売方法や出荷先について理解している。〈ワークシート〉</p>
まとめる・生かす	<p>学習問題に対する結論をまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>学習問題に対する結論</p> <p>農家では、産地としては寒い地域でもよいものを作り、おいしさを保って全国に届けるために、一年中努力と工夫をし、特産物になるように作っている。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習したことを文章でまとめること 	<p>関 学習問題の結論やこの出来事に対する自分の考えを自分の言葉で意欲的に表現しようとしたり、交流して理解を深めようとしたりしている。</p> <p style="text-align: center;">〈ノート・発言・態度〉</p> <p>思 学習内容を比較・関連付け・総合して再構成し、根拠や解釈を明確にして自分の言葉で表現している。〈ノート〉</p>
	<p>資料から農産物の生産が減っていることを知り、特産物をさらに広めるためのキャッチコピーを考え、交流し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 農産物の耕地面積が年々減っていること。 ・ 地域の一員として、みんなの心に留まる言葉を考えること。 	<p>関 農家が抱える課題に関心をもち、地域の一員としてキャッチコピーづくりを通して、地域の特産物に積極的にかかわろうとしている。</p> <p style="text-align: right;">〈発言・ワークシート〉</p>

6 人権教育上のねらい（普遍的な課題「参加・参画」）

それぞれのよさを認め合うとともに、地域の一員として社会をよりよくしようと主体的にかかわる態度を育てる。

7 人権教育上の視点

(1) よりよい社会、集団づくりに主体的に参加・参画する態度を身に付ける。(価値・態度)

(2) 誰もが安心して生活でき、主体的に参加・参画できる社会の在り方について理解する。

(知識)

8 ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりについて

「学級モラルの形成」に配慮して授業を行う。

9 本時の学習指導（11 / 11 時）

(1) 目標

キャッチコピーづくりや交流を通して、互いの考えを認め合うとともに、地域の特産物を

大切にしようとしたり、自分から関わったりしようとしている。(関心・意欲・態度)

(2) 展開

人権教育上の配慮

学習活動	学習内容	指導・評価 ユニバーサルデザインの視点	資料	時間
1 既習事項の地域の農産物を確認する。	地域の特産品を確認すること。	発表に控えめな児童も挙手すると考えられるので、意識して指名し自分の考えが認められる場を作ること、誰もが主体的に参加できるようにする。(価値・態度)	写真・グラフ	2
2 資料をもとに課題をつかむ。	資料から農家の課題を知ること。 人に知らせる方法には、ポスターがあること。	・棒グラフの学習をしていないので、縦軸と横軸が何を表すのか説明し、棒の長短から、視覚的に概要をつかませる。		5
市内のとくさん物を多くの人に広めるキャッチコピーを考えよう。				
3 取り組み方を知り、解決の見通しをもつ。	農産物のよさを短い言葉で伝えること。	・考えるのが難しい児童には、5・7・5のマスワークシートを用意し、言葉を入れられるようにする。	動画	15
4 キャッチコピーを作る。	キャッチコピーをつくること。	既習を生かし標語を作っている児童やノートや副読本を調べている児童がいたら、具体的な行動を称賛し、クラスに広める。		10
5 作ったキャッチコピーを交流し合う。	キャッチコピーを伝えあい、よいところを伝えること。	・男女混合4人一組のグループを作る。机を寄せ、交流ができる環境を作る。 ・グループ交流の後、全体で交流する。他のグループからの感想を聞き、良かった点について発表させる。発表後拍手で称賛し、互いのよさを認め合うことのよさを感じさせる。 (知識)	11	
6 農家の課題に関する学習感想を書き、交流する。	農家の課題について感じたことをノートに書くこと。 農家の思いを聞くこと。	児童の感想を見て回り、地域に関わる記述には丸をつけたり、指名したりすることで、地域に主体的に関わっていこうとする態度を身に付けさせる。(価値・態度) 農家の課題や本時の活動を振り返り、今後も地域の一員として関わろうとしている。(関心・意欲・態度)		

(3) 板書計画

写真	写真	写真	児童が考えた作品
市内のとくさん物			
売上高の グラフ	ポスター		
売れなくなっている キャッチコピー 見る人の心をつかむ言葉			
市内のとくさん物を人に広めるキャッチ コピーを考えよう。			

3 小学校第4学年 国語科学習指導案

- 1 単元名 物語を読んで考えたことを話し合おう
教材名 「ごんぎつね」

2 単元設定の理由

(1) 児童の実態

本学級の児童は、素直で明るく、楽しい雰囲気与生活を送ることができている。学習に対してもペアやグループで学び合いができる児童が増えてきている。また、学習に対して興味、関心を強く抱く児童が多く雰囲気は良い。

これまでに学習した「白いぼうし」では、豊富な会話文や色や、においを表す言葉に着目して、人物の性格や心情、場面の様子を想像して読む学習をした。そして「一つの花」では、戦争中と「十年後」の戦争後の場面の移り変わりを叙述に即して、題名とそれに関わって各場面に繰り返し出てくるキーワード「一つだけ」に着目して、ゆみ子に対する両親の思いを叙述に即し、想像して読むことを学習した。

豊かに想像しながら読みを深めていく楽しさに気付いてきてはいるものの、自分の意見や考えを全体で交流することを苦手と感じている児童もいる。本単元を通して、自分の感じたことや考えをみんなと積極的に交流し合って、読むことをさらに深めていきたい。

(2) 本単元の意図

本単元では、「読むこと」「場面・情景の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化・情景などについて叙述を基に想像して読むこと。」が学習の中心となる。視覚的描写や聴覚的描写、比喩表現、そして、ごんや兵十の会話文を手がかりとして、情景を思い浮かばせるとともに、登場人物の心情が表されているところに音読を位置づけ、内容の理解を深めながら心情の移り変わりを読み取らせていきたい。

興味を持って読み進めるあまりに自分のイメージにとらわれ、思わぬ読み違えをしがちである児童もいるであろう。ゆえに、叙述をもとに丁寧に読み深めることが大切となる。読み取りの際には、気持ちやどの言葉から言い表されているのか。また、情景描写が人物の心情と結びついて表現されていることにも気付かせたい。自分を分かって欲しいと強く願うごんに共感するためにも、自分の思いを分かってもらえたときのことや分かってもらえなかったときのことでも思い出させていきたい。

友達の考えをよく聴こう・分かって、友だちに分かってもらおうという気持ちを大切に、授業を進めていく。

3 単元の目標

(1)【関心・意欲・態度】

ごんと兵十の気持ちの移り変わりに共感しながら読み取り、気持ちや場面の様子が分かるように音読して物語を楽しもうとする。

(2)【読むこと】

ごんや兵十の行動・場面の描写をもとに、ごんの心情を豊かに想像しながら読むことが

できる。

読み取った内容について、自分の考えをもち、一人一人の感じ方に違いがあることに気付くことができる。

(3)【言語事項】

効果的な情景描写や比喩表現を理解することができる。

4 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	・物語を読むことに興味をもち、心に残った出来事をまとめる活動に取り組もうとしている。
読む能力	・場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化や情景などについて叙述を基に想像して読んでいる。
言語についての知識・理解・技能	・言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。

5 指導と評価の計画（全14時間）

時	主な学習活動	学習内容	評価規準・評価方法
1	・全文を通読し、初発の感想をもとに単元全体の学習課題を立てる。	・初発の感想を書く。 ・感想を発表し合う。 ・学習課題をつかむ。	・音読の様子 ・発表の様子 【関心・意欲・態度】
2	・学習計画を立て、新出漢字・語句について学習する。	・学習計画を立てる。 ・新出漢字や難しい語句の意味調べをする。 ・全文を音読する。	・ワークシート ・発表の様子 【言語】
3	・「1」の場面を読み、物語の設定やごんの性格、置かれている状況などを読み取る。	・冒頭の場面を音読する。 ・物語の設定を読み取る。 ・考えたことを話し合う。	・ワークシート ・発表の様子 【読む能力】
4	・「1」の場面を読み、「ごん」と「兵十」の行動や気持ちを読み取る。	・「1」の場面を音読する。 ・行動や気持ちが分かる叙述にサイドラインを引き、表にまとめる。 ・考えたことを話し合う。	・ワークシート ・発表の様子 【読む能力】
5	・「2」の場面を読み、「ごん」の後悔する気持ちや行動を読み取る。	・「2」の場面を音読する。 ・行動や気持ちが分かる叙述にサイドラインを引き、表にまとめる。 ・考えたことを話し合う。	・ワークシート ・発表の様子 【読む能力】

6	・「3」の場面を読み、兵十に償いをする「ごん」の気持ちや行動の変化を読み取る。	・「3」の場面を音読する。 ・行動や気持ちが分かる叙述にサイドラインを引き、表にまとめる。 ・考えたことを話し合う。	・ワークシート ・発表の様子 【読む能力】
7	・「4」と「5」の場面を読み、兵十と加助の会話を聞きながら「ごん」の気持ちや、がっかりする気持ちについて読み取る。	・「4」と「5」の場面を音読する。 ・行動や気持ちが分かる叙述にサイドラインを引き、表にまとめる。 ・考えたことを話し合う。	・ワークシート ・発表の様子 【読む能力】
8	・「6」の場面を読み、撃たれたあとの「ごん」の気持ちを読み取る。	・「6」の場面を音読する。 ・行動が分かる叙述にサイドラインを引き表にまとめる。 ・考えたことを話し合う。	・ワークシート ・発表の様子 【読む能力】
9 10	・「ごんぎつね」を読んで感じたことや考えたことを交流する。	・全文を音読する。 ・感想をまとめて書く。 ・感想を出し合い、グループで何について話し合うかを決める。 ・グループで話し合う。 ・話し合いで深まったことを報告し合う。	・ワークシート ・話し合いの様子 【関心・意欲・態度】 【読む能力】
11 12 13	・読んで考えたことをもとに、続き話を書く。	・活動を選び、理由と伝えたいことの本心を書く。 ・続き話を書く。 ・書いたものを友達と読み合う。	・作品（続き話） ・観察 【書く能力】
14	・新美南吉の他の本を読んで感想を書き、交流する。	・新美南吉の他の本を読み、感想をまとめる。 ・書いたものを読み合い、交流する。	・交流の様子 【読む能力】

6 人権教育上のねらい（普遍的な課題「人間関係づくり」）

読み取った内容について、自分の考えをもち、一人一人の感じ方に違いがあることに気付くことができる。また、友達の考えをよく聴こう・分かって、友だちに分かってもらおうとする態度を養う。

7 人権教育上の視点

- (1) 相手の言うことをよく聴いてわかろうとすること、相手に関心をもつことがコミュニケーションの基盤であることを理解する。(知識)
- (2) 互いに伝え合い、分かり合うために、コミュニケーションを深めていこうとする姿勢を身に付ける。(価値・態度)
- (3) 読み取った内容について話し合い、コミュニケーションを通して自分の考えをもち、一人一人の感じ方に違いがあることに気付くことができる。(技能)

8 本時の学習指導(10/14時)

(1) 目標

ごんぎつねを読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くことができる。

自分の考えの根拠となる部分を詳細に読んだり、必要に応じて引用したりすることができる。

(2) 展開

本校の研究課題「聴き合い 学び合う児童の育成」との関連 ◎人権教育上の配慮

時間	学習活動	学習内容	指導と評価の創意工夫
つかむ 8分	1 前時の学習を想起する。 2 本時の学習のめあてを把握し、確かめる。 ペア学習	・本時の課題の確認	・前時までの学習を振り返り、第1場面と第6場面では、ごんの兵十に対する気持ちや行動が大きく変化していったこと、心が通じ合うことができたかなどを確認する。 ・音読は1冊の教科書を二人で交互に読ませる。
めあて：ごんぎつねを読んで感じたことや考えたことを話し合おう。			
深める 30分	3 「ごんぎつね」を読んだ感想をワークシートにまとめる。 4 3～4名での班を作って、互いに感想を交流し、話し合いたいことを決める。 グループ(班)学習で	・個の考えの高揚 ・ワークシートの書き方 ・交流の仕方 ・学び合いの仕方	評価の場面 ・なかなか感想が書けない子は、初めに書いた感想を読み返したり、登場人物と自分を重ねて考えてみたりするように助言する。 【関心・意欲・態度】 【読む能力】 ◎全員が感想を書けるように書く時間を十分に長く取る。(技能) ・机間指導をしながら、話し合いが進んでいないところはテーマをいくつか紹介するなどして助言する。 「例」兵十とごんは心が通じ合ったのか。 ◎よく聴くこと・理解することの大切さ

	<p>どの子ども孤立させない。</p> <p>5 決まったことについて学び合う。</p> <p>6 全体で発表して交流する。</p>	<p>・交流の仕方</p> <p>・学び合いの仕方</p> <p>・考えの深め方</p> <p>・発表の仕方</p> <p>・交流の仕方</p>	<p>を確認する。(知識)</p> <p>・机間指導をしながら、決まったテーマから内容がそれそうな場合は、話題を戻すように助言する。</p> <p>◎分からない子が分からないと言える雰囲気やつぶやきを大切に、お互いに学び合えるようにする。(価値・態度)</p> <p>◎感じ方は人それぞれであることや伝え合うと一人では気付かなかったことが分かり、読みが深まったり、広まったりすることを確認する。(技能)</p>
まとめ 7分	7 本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。	・次時の学習の見通し	・本時の学習を振り返り、次時への課題意識をもたせ、意欲を高めさせる。

教室の机配置は、「コの字」又は「4人グループ」：子供が相互の多様性を認め合い、差異から学び合うことを重視するため。

板書例

<p>めあて</p> <p>「ごんぎつね」を読んで感じたことや考えたことを話し合い、一人一人の感じ方に違いがあることに気付こう。</p>	<p>ごんぎつね</p>
<p>一 班のテーマ</p> <p>二 班のテーマ</p> <p>三 班のテーマ</p> <p>四 班のテーマ</p>	<p>五 班のテーマ</p> <p>六 班のテーマ</p> <p>七 班のテーマ</p> <p>八 班のテーマ</p>
<p>まとめ</p> <p>・物語の感じ方は十人十色である。</p> <p>・伝え合うと一人では気付かなかったことが分かり、読みが深まったり、広まったりする。</p>	

4 小学校第5学年 算数科学習指導案

1 単元名 面積の求め方を考えよう

2 単元について

(1) 教材観

本単元で扱う四角形と三角形の面積は、学習指導要領で以下のように位置づけられている。

第5学年 量と測定

(1) 図形の面積を計算によって求めることができる。

ア 三角形、平行四辺形、ひし形及び台形の面積の求め方を考えること。

平面図形の面積については、第4学年「面積のはかり方と表し方」で長方形、正方形の面積の求め方を学習している。その際には、1辺が1cmの正方形がいくつ分あるかということなどで広さを理解し、 cm^2 、 m^2 等の単位を用いて正方形や長方形の面積を求め、公式を導いている。

本単元では、これらの学習の発展として、平行四辺形、三角形、台形及びひし形等の基本図形の面積の求め方を考え、面積の概念の理解を深めることを主なねらいとしている。その際、既習の求積可能な図形の面積の求め方を基にして考え、新たな図形の求積方法を児童自らが考える過程を大切にしていきたい。既習の図形にどのように帰着させているのか、そして公式がどんな過程で導き出されたのかを児童自らが筋道を立てて考えたり、表現したりすることで、思考力や表現力の育成につなげたい。

(2) 児童観

本学級は、算数に興味をもっている児童が多く、また、友達と積極的に学び合う活動に取り組む児童も多い。しかし、理解力は二極化しており、自力解決時に素早く解答までたどり着く児童もいれば、自力では書き始めることさえできない児童もいる。個別の支援をしながら、理解に差が生まれないように注意したい。また、学級全体で発表することに関して、自分の考えに自信をもって発表できない児童が多くいる。学び合い活動により、一人一人が自分の考えを説明する機会を十分に設定したい。

(3) 指導観

基本的な図形の面積について、既習の求積可能な図形に帰着させる考え方を多様に取り上げ、計算で求められることに気付かせるようにする。そのため、全体での話合いの前に、3人組での学び合い活動を積極的に取り入れる。3人組で意見を交わすことにより、学び合いが活発に行われるだけでなく、自分の考えを論理的に説明する力とともに相手を慮る態度を育成したい。また友達との共通点や相違点に気付かせることで、別の解法を考えたり、法則性を導こうとしたりする意欲を引き出していきたい。

平行四辺形や三角形においては、底辺の長さが等しく、高さも等しければどんな形であっても面積は等しくなるという図形の性質を児童に気付かせる。この際、単に公式に当てはめて確かめるだけではなく、平行な直線上にある辺や頂点を実際に移動させて、深い理解につなげていきたい。

3 研究主題との関わり

<p>【研究主題】 『児童の思考力・表現力を高めるための授業の創造』 - 児童の主体的な学びあいとまとめをめざして -</p>
<p>【研究仮説】 児童のわかり方に視点をあて、児童自らが考え児童が相互に学びあう場面、振り返りやまとめる場面を意図的に設定し、児童が自分の考えを自分の言葉でまとめられるようになれば、思考力や表現力が高まるだろう。</p>

【仮説にせまる手立て】

(1) 学びあいの工夫

自分の考えを3人組で説明したり、全体で考えを共有したりする場と時間を十分に設定することで、理解を深めさせる。

違う考えを聞く場合は、「なぜそのように考えたのか」の着想を相手の立場に立って考えさせるよう、話し合いを支援する。

(2) まとめ(振り返り)の工夫

児童がポイントを押さえてまとめられるように、授業中、まとめにつながるキーワードを赤字で板書し可視化していく。

本時のまとめを児童に自分の言葉で考えさせることで、本時で学んだことを一人一人に振り返らせ、整理させる。

4 単元の目標

平行四辺形、三角形、台形、ひし形などの面積の求め方を理解し、公式をつくり出してそれらの面積を計算で求めることができるようにする。

関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解
平行四辺形、三角形、台形、ひし形等の面積について、既習の面積の求め方に帰着させて考え、計算で求めようとする。	既習の面積の求め方をもとに、平行四辺形、三角形、台形、ひし形等の面積の求め方を工夫して考え、公式を作り出すことができる。	平行四辺形、三角形、台形、ひし形等の面積を公式を用いて求めることができる。	平行四辺形、三角形、台形、ひし形等の計算による面積の求め方を理解する。

5 指導と評価の計画 (12 時間) 省略

6 人権教育上のねらい (普遍的な課題「多様性の尊重・共生」)

他者の考え方や感じ方に違いがあることに気付き、互いの違いを認め合いながら、受け入れることができる。

7 人権教育上の視点

(1) 多様な考えを受け入れながら、よりよい解決の仕方を探ろうとしている。(価値・態度)

(2) 他者の考えや言動に興味・関心を持つとともに、一人一人の考え方や価値観には多様性があることに気付くことができる。(技能)

8 本時の学習 (4 / 12 時)

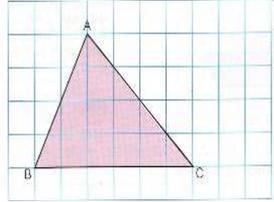
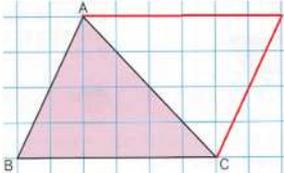
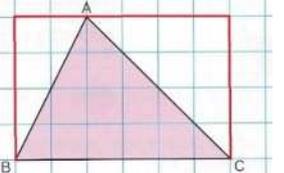
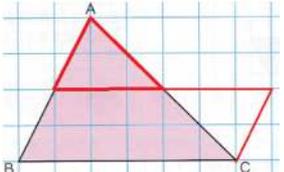
(1) 目標

○三角形を変形し、面積を求めようとしている。(関心・意欲・態度)

○三角形の面積の求め方を考え、筋道を立てて説明することができる。(数学的な考え方)

(2) 展開

人権教育上の配慮

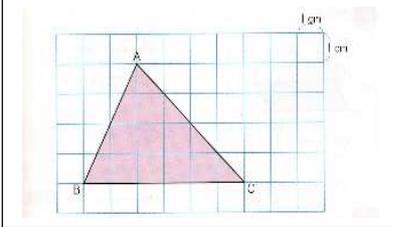
学習活動 主な発問 (○)	予想される児童の反応 (・)	指導上の留意点 (・) 評価 (○) 支援 (☆)
<p>1 . 既習内容の確認をする。 ○平行四辺形はどのように求めたかな。</p> <p>2 . 問題場面を知り、課題をつかむ。</p> <p>○今日の課題はなんですか。</p>	<p>・ 長方形に変形して求めた。 ・ 面積の求め方を知っている図形に変えてから求めた。</p> <div data-bbox="416 763 986 1059" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>下の三角形 A B C の面積は何 cm^2 ですか。</p>  </div> <p>・ 三角形の面積はどのように求められるか。 ・ 三角形の面積の求め方を考えよう。</p>	<p>・ 平行四辺形の面積の求め方、公式を押さえる。</p> <p>・ 児童に自分で課題を考えさせる。</p>
<p>三角形の面積はどうすれば求められるか考えよう。</p>		
<p>3 . 自力解決をする。</p> <p>4 . 考えを発表し合い、比較し、検討する。 (3 人組)</p>	<p>・ 平行四辺形の面積を半分にして求める。 $(6 \times 4) \div 2 = 12$</p>  <p>・ 長方形の面積を半分にして求める。 $(4 \times 6) \div 2 = 12$</p>  <p>・ 図形を変形し、平行四辺形を作って求める。 $6 \times 2 = 12$</p> 	<p>・ 本時のまとめの見通しをもたせるようにする。</p> <p>(関心・意欲・態度) [観察] ○三角形を変形し、面積を求めようとしている。 ☆ 平行四辺形の面積を求める際、既習の図形の面積の求め方に帰着させたことを振り返らせ、考え方の見通しをもたせる。 ☆ 平行四辺形から三角形に形が変わる様子を見せ、平行四辺形に帰着させて考えればよいことに気づかせる。</p> <p>・ 自力解決が終わった児童から 3 人組を作り発表し合わせる。 友達の考え方もノートに書か</p>

		<p>せるとともに「なぜそのように考えたのか。」の着想に目を向けさせるよう支援する。</p> <p style="text-align: right;">【技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 発表が終わった児童には、別の求め方を考えさせる。
<p>[本時における、研究仮説にせまる手立て]</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを3人組で説明したり、全体で考えを共有したりする場と時間を十分に設定することで、理解を深めさせる。 違う考えを聞く場合は「なぜそのように考えたのか」の着想を相手の立場に立って考えさせるよう、話し合いを支援する。 		
<p>(全体)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○それぞれの考え方で似ていることや、同じことはありますか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・面積の求め方を習っている図形に変形している。 ・線を引いて考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎それぞれの考え方のよさを味わい、違いに気づかせる。 <p style="text-align: right;">【価値・態度】</p> <p>(数学的な考え方)[発表]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○三角形の面積の求め方を、筋道を立てて説明している。 ☆なぜそうなったのかを問いながら、考えを整理させていく。
<p>[本時における、研究仮説にせまる手立て]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童がポイントを押さえてまとめられるように、授業中、まとめにつながるキーワードを赤字で板書し可視化していく。 		
<p>5. 三角形の面積の求め方をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の言葉でまとめてみよう。 		<ul style="list-style-type: none"> ・児童に自分の言葉でまとめさせる。 ・児童数名のまとめを学級で共有する。 <p>それぞれの考え方に評価、称賛する。【価値・態度】</p>
<p>三角形の面積は、平行四辺形や長方形に形を変えれば求められる。</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> ・平行四辺形や長方形に変形して求める。 ・面積の求め方を知っている図形に変形すれば求められる。 	
<p>[本時における、研究仮説にせまる手立て]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時のまとめを児童に自分の言葉で考えさせることで、本時に学んだことを一人一人に振り返らせ、整理させる。 		

9 板書計画

長方形の面積 = たて × よこ
 平行四辺形の面積 = 底辺 × 高さ

下の三角形 A B C の面積
 は何 cm^2 ですか。



【課題】

三角形の面積はどうすれば求められるか考えよう。

【まとめ】

三角形の面積は、長方形や平行四辺形に形を変えれば求められる。

考え方

考え方

考え方

どの考え方も、面積の求め方を知っている図形（長方形や平行四辺形）に形を変えている。

まとめ

まとめ

5 小学校第6学年 社会科学習指導案

1 単元名 日本の歴史 「世界に歩み出した日本」

2 小単元設定の理由

(1) 教材観

本小単元は、学習指導要領に以下のように位置付けられている。

第6学年 内容

(1) 我が国の歴史上の主な事象について、人物の働きや代表的な文化遺産を中心に遺跡や文化財、資料などを活用して調べ、歴史を学ぶ意味を考えるようにするとともに、自分たちの生活の歴史的背景、我が国の歴史や先人の働きについて理解と関心を深めるようにする。

ク 大日本帝国憲法の発布、日清・日露の戦争、条約改正、科学の発展などについて調べ、我が国の国力が充実し国際的地位が向上したことが分かること。

本小単元は、日清・日露戦争、条約改正や産業・科学の発展などの歴史的事象を取り上げ、これらを具体的に調べることを通して、我が国の国力が世界に認められ、国際的地位が向上したことが分かるようにすることをねらいとしている。

(2) 児童観

本学級の児童は、6年生から始まった歴史学習に興味をもち、歴史上の人物や時代背景などの学習に意欲的に取り組んでいる。授業中に学習し興味をもったエピソードについて家庭学習をしてきたり、歴史関連の書物を読んできたりする児童も多い。授業では絵や写真、資料などをもとに当時の人々の生活や社会の様子を調べ、分かったことをまとめるなどして学習を進めてきた。これまでの学習で、江戸時代に身分制度が確立されたことや、その後の解放令により差別に苦しめられた人々も身分上は解放されたが、新しい形で身分の違いが残ったことを学習済みである。歴史上の知識として知っているだけでなく、差別解消に向けた人々の行動について考えたり、思いを知ったりすることで同和問題について正しい知識を身に付けさせたいと考える。

(3) 指導観

日清・日露戦争に勝利し、勢力を拡大したこと、陸奥宗光や小村寿太郎の働き等により条約改正に成功したこと、日本の医学等の研究が国際的に認められるようになったことなどを通して我が国の国力が充実し、国際的地位が向上理解したことが分かるようにする。一方、戦争により朝鮮や中国の人々に大きな損害を与えたことや、産業が発展したが、さまざまな社会問題が引き起こされたことにも触れていく。また、これまで男性より低く見られてきた女性たちや、身分制度が改められた後も差別を受けてきた人々が差別解消に向けて運動したことを取り上げ、人権への意識が徐々に芽生えてきたことを学習するとともに、同和問題をはじめとする様々な人権課題に関する正しい知識を身に付けさせたいと考える。

3 単元の目標

- (1) 日清・日露戦争、条約改正、科学の発展やそれらにかかわる人物の働きに関心を持ち、進んで調べようとしている。(社会的事象への関心・意欲・態度)
- (2) 我が国が欧米の文化を取り入れ、国力が充実し、国際的地位が向上したことについて調べたり調べたことを関連付けたり総合したりして、それらにかかわる人物の願いや働きについて考え、適切に言語などに表現している。(社会的な思考・判断・表現)
- (3) 日清・日露戦争、条約改正、科学の発展やそれらにかかわる人物の働きについて、地図や年表その他の資料を活用して必要な情報を集め、読み取っている。(観察・資料活用の技能)
- (4) 我が国の産業がさかんになり、国際的地位が向上したことによって、人々の生活や社会が変化したことが分かっている。(社会的事象についての知識・理解)

4 人権教育上のねらい(同和問題)

根強く残されてきた差別を正しく認識し、共感的理解を図るとともに、差別をなくしていこうとする態度を育成する。

5 人権教育上の視点

- (1) 部落差別に関する正しい知識を身に付け、差別の不当性を理解する。(知識)
- (2) 自分及びすべての他者をかけがえのない人間として尊重しようとしている。(価値・態度)

6 指導計画(7時間扱い 本時6/7時)

時		目標	学習活動	評価規準			
				関・意・態	思・判・表	資・技	知・理
1	発展していく日本	この時代にはどのようなことが起こり、日本が発展していったのか話し合い、学習問題をつくる。	紡績工場の写真や資料・年表を見て、気付いたことを話し合う。	日本の産業の発展や外国とのかかわりに関心を持ち進んで調べようとしている。	産業の発展や欧米諸国に追いつこうとしている日本の様子を知り、学習問題を考え表現している。		
2	条約改正をめざして	不平等条約によって日本が受けた影響を理解する。	図を見て不平等条約の内容を話し合い、条約改正に向けた陸奥宗光の働きや願いを読み取る。			不平等条約が日本にもたらしていた不利益や条約改正に取り組んだ陸奥宗光の願いや働きを、資料や本文から読み取ってまとめている。	
3	中国やロシアと戦う	2つの戦争によって日本の世界における地位向上につながったことを理解する。	「朝鮮をめぐる日本、ロシア、中国」の風刺画を見て、朝鮮をめぐる三国の関係を話し合い、2つの戦争の様子や結果を読み取る。	世界のなかで、日本はどのように変わっていったのか関心を持ち、進んで調べている。	2つの戦争に勝利したことが、日本の世界における地位向上につながったことを考え、ノートなどに表現している。		

4	朝鮮の植民地化と世界へ進出する日本	日本が朝鮮を植民地にし、朝鮮の人々を傷つけたことや、条約改正を果たし、欧米諸国と対等な関係を築いたことを理解する。	写真や地図を見て、日本が朝鮮の人々にどのようなことをして、それを朝鮮の人々はどう思ったのかを考える。条約改正を果たし、世界で活躍した日本人の様子や国内での新しい文学や科学の発展について調べる。		医学などの分野で国際的に活躍した日本人の存在が、国際的な地位の向上につながったことを考え、ノートなどに表現している。		日本が朝鮮を植民地にし、朝鮮の人々に大きな損害を与えたこと、小村寿太郎が条約改正を果たし、欧米諸国と対等な地位を築いたことを理解している。
5	生活や社会の変化	産業の発展によって人々の生活が変化したことを理解する。	産業の発展によって生活がどのように変わってきたのか調べる。人々の民主主義への意識の高まりについて調べる。				産業の発展が様々な面で人々の生活に変化をもたらしたことを分かっている。
6	生活や社会の変化 本時	差別の撤廃を目指す運動について自分の考えをまとめる。	人々の民主主義への意識の高まりについて調べる。		水平社運動のおこりや差別解消運動のために闘う人たちの行動について自分の考えをまとめている。		全国水平社のおこりやその他の差別と闘った人たちの思いを理解している。
7	まとめる	単元をふり返り、登場した人物や働きをまとめる。	学習を通して考えたことを、人物を中心にノートにまとめる。		日本の国力の充実や国際的な地位の向上、それらにともなう社会の変化を、人物の働きや思いと関連付け、適切に表現している。	日本の国力の充実や国際的地位の向上についてノートに適切にまとめている。	

7 本時の学習指導（本時 第6 / 7時）

（1）本時のねらい

全国水平社のおこりやその他の差別と闘った人たちの思いを共感的に理解する。

（社会的事象についての知識・理解）

水平社運動のおこりや差別解消のために闘う人たちの行動について自分の考えをまとめる。

（社会的な思考・判断・表現）

（2）本時の展開

人権教育上の配慮

段階	学習活動・学習内容	指導上の留意点	評価規準	[時間]
導入	1 前時の学習内容の振り返りをする。 ・産業の発展や戦争により起きた様々な社会問題 ・生活を守るための民主主義への意識の高まり	前時のノートを開くようにし、内容の振り返りを行う。		[2分]
	2 全国水平社がつくられたことを知る。 ・全国水平社	山田孝野次郎少年が演説する様子を写真で見せ、本時のねらいを確認する。		[3分]

	<p>3 明治時代の差別の様子について既習事項を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明治時代になって身分制度が改められたこと ・長い間差別に苦しめられた人に対し、政府は差別をなくすための政策や生活の改善を行わなかったこと 	<p>江戸時代の身分ごとの人口の割合のグラフを見せ、江戸時代に確立された身分制度を想起させる。</p> <p>教科書 p.103 の「本当の平等を求めて」を読み、身分上は平等になったが、新しい形で身分の違いが残り、差別をされていた人々が自らの力で差別をなくす運動を続けてきていたことをつかむことができるようにする。</p>	[5 分]
展 開	<p>4 本時のめあてを確認する。</p>		[3 分]
	<p>厳しく差別されてきた人々は、差別をなくすためにどのような行動をしたのか、自分の考えをまとめよう</p>		
	<p>5 全国水平社はなぜ差別をなくすための運動をしたのか、予想を立てる。</p>		[2 分]
<p>6 大正時代の差別の実態を資料から読み取り、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・解放令から 50 年後の差別の実態 ・差別され続けていた人々の行動 	<p>水平社宣言や、差別をされてきた人々の大正時代での生活の様子が書かれた資料を読み、解放令以降も差別が続いており、厳しい暮らしやつらい思いをしてきたことを読み取らせる。</p> <p>資料を見せ、読み取らせることで部落差別に関する正しい知識を身に付けさせる。</p> <p style="text-align: right;">(知識)</p> <p>なぜこのような生活をしてきたのかを問い、差別が根強く残っていることに気付かせる。</p>	[10 分]	
<p>7 全国水平社はなぜ差別をなくす行動をとったのか自分の考えをまとめる。</p>	<p>民主主義の意識の高まりにより、農民や女性も自ら立ち上がり行動したことを想起させる。</p> <p>水平社運動のおこりや差別解消運動のために闘う人たちの行動について自分の考えをまとめている。(思・判・表)</p> <p>意図的に指名し、できるだけ多くの児童に考えを発表させる。</p> <p>自分の考えをまとめたり、多くの友達の考えを聞いたりさせ、自分及び全ての他者をかけがえのない人間として尊重しよう</p>	[10 分]	

6 小学校特別支援学級 生活単元学習指導案

1 単元名 「秋祭りをしよう」

2 単元について

本学級児童は、全校児童で毎年行う学校行事「全校秋祭り」を楽しみにしている。本行事は、秋の収穫を喜ぶと共に、縦割り班毎に、お店を出してゲームをしたり、お客さんになって遊んだりする児童会活動である。今年度、本学級の児童数が増えたことを機に、本学級でも秋祭りを開催することにした。秋祭りを計画して、児童同士が協力して準備をし、お店やさんを開くことは、連帯感や達成感を味わわせるよい機会であると考えた。また、本学級で育てた野菜の収穫、調理などを通して、秋の恵みに感謝させていきたい。

単元の始めに、本学級で育てた野菜の育つ様子や栽培活動を振り返り、皆で大切に育てたことが収穫に結びついたことに気付かせ、本学級で秋祭りを実施する計画を立てる。秋祭りの準備の際には、「全校秋祭り」の写真を見せ、児童が楽しかった遊びで再び遊んだり、分担された役割を教師が模範で示したりして、秋祭りのイメージを膨らませる。そして、児童が協力しながら、準備を丁寧に行い、自信を持ってお店やさんの運営ができるようにしたい。

本時は、秋祭りの準備やお店やさんの練習をしたことを振り返りながら、最後に友達と協力して秋祭りの飾り物や案内表示を作ることで、秋祭り本番に向け、お店やさんをやろうとする意欲を高めたい。

3 研究主題との関わり

本校では、研究主題を「まごころをつくしあい、みんな仲よく、たゆまず学び続ける児童の育成」として研究を進めている。

本時は、人権教育上のねらいを普遍的な課題「共感と連帯感」におき、飾り物や案内表示を協力して作り、自分が作業で頑張ったことを発表し合い、互いに認め合う場面を設ける。このような活動を行うことで、仲良く助け合い、思いやりの心をもった児童を育成し、研究主題にせまりたい。

【手立て】教師の模範や実物の飾りを見せ、視覚的に捉えさせる。

本学級には、視覚的な情報が得やすい児童が多い。教師が実際に作業して見せたり、実物の飾り物を触ったりして、本時に作業することの具体的なイメージをもてるようにする。

【手立て】児童同士が協力して作業する場面をつくる。

作業は、児童が一人で集中してやる場面と友達と一緒に作る場面を設定する。案内表示は、本時に交流学习に行っている友達の力も合わせて、本学級の皆で完成させることが大切であることに気付かせる。

【手立て】友達や教師に称賛される場面をつくる。

作業中は、小さなことでも認め、教師が称賛する言葉を多くかける。発表をした際には、意識して互いに拍手をして、児童が認められていることを感じられるような場面を設定する。

4 単元の目標

(1) 共通目標

秋祭りに向けて、野菜を収穫することができる。

秋祭りに向けて、皆と協力して準備ができる。

皆と楽しく秋祭りができる。

(2) 個人目標

児童A 友達と協力して、野菜を収穫することができる。

自分のやることを理解して、友達や教師と秋祭りの準備ができる。

友達や教師とお店やさんやお客さんをやり、秋祭りを楽しむことができる。

児童B 友達と協力して、野菜を収穫することができる。

苦手なことでも諦めないで、友達や教師と秋祭りの準備ができる。

進んでお店やさんやお客さんをやり、秋祭りを楽しむことができる。

児童C 進んで、野菜を収穫することができる。

自分のやることがわかったら、進んで秋祭りの準備ができる。

困っている友達がいたら、手伝いながら、一緒に秋祭りを楽しむことができる。

児童D 穫りたい野菜を収穫することができる。

自分のやることを覚えて、友達や教師と秋祭りの準備ができる。

友達や教師とお店やさんやお客さんをやり、秋祭りを楽しむことができる。

児童E わがままを言わず、野菜を収穫することができる。

友達や教師と秋祭りの準備ができる。

友達や教師とお店やさんやお客さんをやり、秋祭りをすることができる。

5 単元の指導計画(14時間扱い)

(1) 秋祭りの計画を立てよう・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間

(2) 野菜の収穫をしよう・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間

(3) 野菜を調理して味わおう・・・・・・・・・・・・・・・・・・3時間

調理の計画 調理実習

(4) 秋祭りの準備をしよう・・・・・・・・・・・・・・・・・・7時間

やりたいお店やさんの決定〔全校秋祭りを振り返る。〕

開店の準備〔開店に必要な物を製作をする。遊び方の説明を考える。リハーサルをする。〕

飾り物や案内表示の製作(本時12/14)

(5) 秋祭りを行おう・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間

(6) 秋祭りを振り返ろう・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間

6 人権教育上のねらい(普遍的な課題「共感と連帯感」)

友達の言動に関心をもち、仲良く協力して、秋祭りの飾り物や案内表示を作るといった共通の目的を達成するために努力しようとする。

7 人権教育上の視点

(1) 秋祭りの飾り物や案内表示を作る活動を通して、友達と仲良く、協力しようとする気持ち

を育てる。(価値・態度)

(2) 言いたいことを自分の言葉で伝えられる能力を高める。(技能)

8 本時の学習指導(12/14)

(1) 本時の目標

共通目標 秋祭りの飾り物や案内表示を作ることができる。

個人目標

	本時に関する実態	目標
児童 A	<ul style="list-style-type: none">・視覚的な情報を通して理解を得ることができる。・時間はかかるが、道具を使って、作業ができる。	<ul style="list-style-type: none">・作りたい飾り物や案内表示を、友達と作ることができる。
児童 B	<ul style="list-style-type: none">・集中できるのは短時間である。・手先を自由に使えないので、作業時は教師の支援が必要である。	<ul style="list-style-type: none">・作りたい飾り物や案内表示を、友達や教師と作ることができる。
児童 C	<ul style="list-style-type: none">・進んで友達の手伝いができる。・自分で道具を使って作業ができる。	<ul style="list-style-type: none">・作りたい飾り物や案内表示を、進んで作ることができる。
児童 D	<ul style="list-style-type: none">・周りを気にせず、気分で行動することが多い。・道具を上手に使えないので、作業時は教師の支援が必要である。	<ul style="list-style-type: none">・作りたい飾り物や案内表示を、友達や教師と作ることができる。
児童 E	<ul style="list-style-type: none">・周りや指示を気にせず行動することが多い。・道具を上手に使い、一人で作業が進められる。	<ul style="list-style-type: none">・作りたい飾り物や案内表示を、自分で考えて作ることができる。

(2) 本時の展開 次ページに記載

9 評価

(1) 共通目標に係わる評価

秋祭りの飾り物や案内表示を作ることができたか。

(2) 個人目標に係わる評価

児童 A 作りたい飾り物や案内表示を、友達と作ることができたか。

児童 B 作りたい飾り物や案内表示を、友達や教師と作ることができたか。

児童 C 作りたい飾り物や案内表示を、進んで作ることができたか。

児童 D 作りたい飾り物や案内表示を、友達や教師と作ることができたか。

児童 E 作りたい飾り物や案内表示を、自分で考えて作ることができたか。

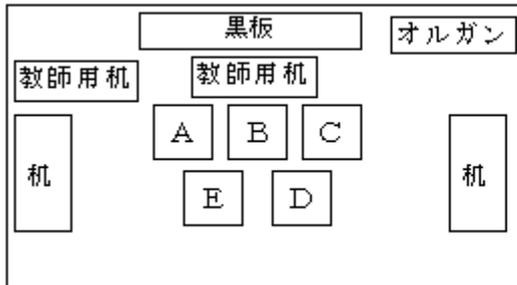
(2) 展開

人権教育上の配慮

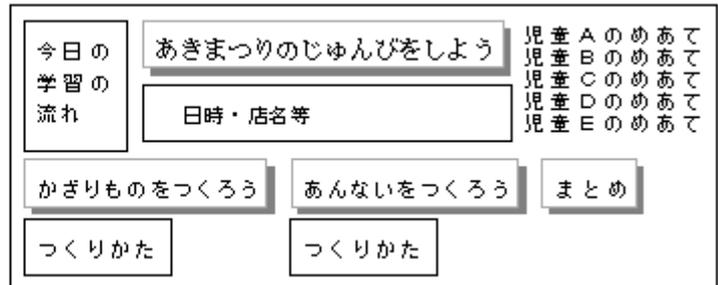
学習内容	個別の学習活動() 指導上の留意点() 支援(*) 評価()					資料等	時
	児童 A	児童 B	児童 C	児童 D	児童 E		
1 はじめの挨拶をする。	はじめのあいさつをする。 日直の号令を聞き、学習の始まりを意識してあいさつをさせる。					ホワイトボード	5分
2 学習課題と個別のめあてを知る。	あきまつりのじゅんぴをしよう						
3 今日の学習の流れを知る。	かざりものをつくる。 あきまつりのあんないをつくる。 じぶんがつくったものをはっぴょうする。 今日の学習の流れを知らせ、学習の見通しを持たせる。						
4 自分で、飾り物を作る。	飾り物を作る。 飾り物は自分で作ることを意識させる。					野菜 飾り物の実物 画用紙 新聞紙	35分
5 皆で、案内表示を作る。	* 作りたい飾りの材料を選んで自分で用意させる。 * 作り方がわからない児童に声をかけ、支援をする。(T1)(T2)(T3) * 教師が製作した実物を参考にして作らせる。 * 飾りが作れたら称賛する。(T1)(T2)(T3)						
	野菜の絵を描いて切り抜く。 * 形が描けない場合には、野菜の形をなぞって描かせる。(T2)	野菜の絵を描いて切り抜く。 * 形が描けない場合には、野菜の形をなぞって描かせる。 * 支援しながらゆっくり切らせる。(T2)	野菜の飾りを、工夫して作る。 * 作り方の順序にそって作る。 * 細かいところは、支援をする。(T2)	野菜の絵を描いて切り抜く。 * 形が描けない場合には、野菜の形をなぞって描かせる。 * 支援しながらゆっくり切らせる。(T1)	野菜の絵を描いて切り抜く。 * 作りたい形があったら、自分で工夫して作らせる。 * 離席したら、戻るように促す。(T3)		
6 自分で作った飾り物や皆で作った案内表示を見せ合う。	秋祭りの案内表示(ラシャ紙)を作る。 友達と協力して作ることを意識させる。						
	秋祭りの案内表示を、順番に飾っていく。(絵、手形、野菜スタンプ、色紙など) * 互いの作業をよく見させ、友達が上手にできていることに気付いたら、称賛してあげるように声かけをする。 友達と話し合いながら、看板や飾りを作るようにさせる。(価値・態度)						
7 振り返りをする。	作りたい飾り物や案内表示を、友達と作ることができたか。	作りたい飾り物や案内表示を、友達や教師と作ることができたか。	作りたい飾り物や案内表示を、進んで作ることができたか。	作りたい飾り物や案内表示を、友達や教師と作ることができたか。	作りたい飾り物や案内表示を、自分で考えて作ることができたか。	野菜スタンプ	
	自分で作った飾り物や、皆で作った案内表示を見せ合う。 友達の作った飾りや看板の良いところを見つけて発表させる。						
8 終わりの挨拶をする。	自分で作った飾り物を見せながら、上手にできたところを発表する。 * 上手にできたところが言えなかったら、気に入っているところや頑張って作ったところなどでもよいことを伝える。 自信を持って言えるように、発表する前に発表する内容を確認する。(技能)						5分
	上手にできたり、気に入ったりしているところを見つけて発表する。 * 色や形を見て上手なところを見つけるように支援する。(T2)	上手にできたところを見つけて発表する。 * 色や形を見て上手なところを見つけさせる。(T2)	上手にできたところを見つけて発表する。 * 色や形を見て上手なところを見つけさせる。(T2)	上手にできたり、気に入ったりしているところを見つけて発表する。 * 色や形を見て上手なところを見つけるように支援する。(T3)	作った物を見て、上手にできたり、気に入ったりしているところを発表する。 * 言いたいことが、伝わるように言葉を補い発表させる。(T3)		
7 振り返りをする。	飾り物や案内表示作りを振り返る。 飾り物を飾ったり、案内表示を掲示したりして秋祭りをを行うことを再確認させる。						5分
8 終わりの挨拶をする。	良かったところや直したいところがあれば考えさせる。 * 頑張って学習したことを称賛する。 * 次時は、秋祭り本番であることを伝え、意欲を高めさせる。 * 姿勢を正しくして、一緒にあいさつができるようにさせる。(T2)(T3)						

10 備考

(1) 配置図



(2) 板書計画



7 中学校第1学年 道徳学習指導案

- 1 主題名 公正な態度 [内容項目 C - (11)]
- 2 資料名 「シカト」 (出典 中学生の道徳「かけがえのないきみだから」学研)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

内容項目 C - (11)は正義と公正さを重んじ、誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない社会の実現に努めることをねらいとしている。「正義を重んじ」ということは、正しいと信じることを自ら積極的に実践できるように努めることである。また、「公正さを重んじる」ということは、私心にとらわれて事実をゆがめることを避けるように努めることである。

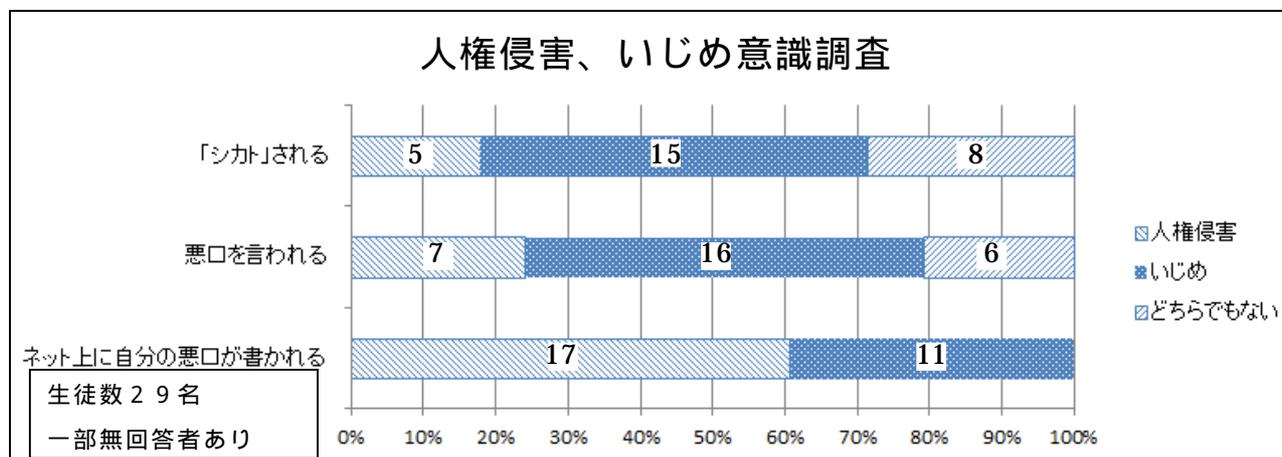
中学生の時期は、自己中心的な考え方や言動に出たり、狭い仲間意識にとらわれた行動をとったりしがちである。自分が仲間はずれにされたり、他人の批判を受けたりすることを恐れ、できるだけ逆らわず仲間に合わせていこうとする。人間関係の作り方の稚拙さ、未熟さがあげられ、そこには偏ったものの見方や考え方のありようが窺える。

今、社会問題となっている「いじめ」の根源はこのような弱さにある。差別や偏見のない社会の実現には正義を愛する心が不可欠である。事実をしっかり見据え、公平・公正に物事を判断することのできる力の育成は重要な課題である。この資料に描かれた身近な素材を、自分の問題として受け止め、偏見を持たず公平に接する態度、自己の価値観を確立できる強い意志と勇気を育てることが大切である。

(2) 生徒の実態について

本学級の生徒は、全体的に静かで授業中はとてもおとなしい。話し合い活動では、意見を述べる生徒がおり、学級の課題を解決しようと班長が中心となり、互いに高め合おうとする姿勢がみられる。生徒は、そこから学級への所属感や責任感を感じている。しかし、小学校から築き上げた人間関係で、狭い仲間意識にとらわれた言動をする生徒や、自己中心的な考え方や言動で、自分の感情や都合を優先してしまう生徒も見受けられる。お互い気心知れた仲であるが、自分がしたことによって相手がどう感じるのか、学ぶべき時期であると感じる。

今回、様々な事例について、「人権侵害」「いじめ」「どちらでもない」の三択で、アンケート調査したところ、「シカト」に関しては、半数が「いじめ」だと捉えている一方、約三分の一にあたる8名が「どちらでもない」と捉えていることが分かった。



(3) 資料の活用について

本資料は、人間関係の難しい中学時代に、友人のふとした言葉から、自分も友達を無視し、差別するところだった体験を通し、どうしたらいじめなどのない明るい生活を送ることができるのか、深く自己を見つめた生徒作文である。

友達の言葉に左右され、「シカト(無視)」というようないじめは、中学生の間でも見られる行為なのではないだろうか。自分が仲間はずれにされたり、目立つことをして他人の批判を受けたりすることを恐れ、なるべく逆らわないようにと、見て見ぬ振りをしたり、避けて通ったりして、正義感や公正さに欠ける風潮が見られることがある。誰もが陥りやすい主人公の体験を、自分の問題として受け止め、他人の言葉を鵜呑みにしたり、他人の行動に左右されたりすることなく、自分で正しく判断する態度の大切さを深く自覚させる必要がある。

4 指導計画 3時間扱い

(1) 事前指導 いじめ、人権侵害に関する意識調査(アンケート)

第1時 「いじめとは何か」を考える

第2時 中学生の道徳「かけがえのないきみだから」(本時)

第3時 いじめから人権侵害へ

(2) 事後指導

ワークシートへのコメント、廊下掲示

いじめから人権侵害へのつながりに関して考える授業

日常生活における言動や、やりとり帳での変容の見届け

5 本時のねらい

身勝手な考えや狭い仲間意識にとらわれず、広い立場に立って公正・公平で差別や偏見のない社会を築こうとする態度を養う。

6 人権教育上のねらい (子供)

将来人権を保障する共生社会の担い手となれるよう、自他を尊重する精神を養う。

7 人権教育上の視点

(1) 正義と公正を尊ぶ態度【価値・態度】

(2) 人の偏見に惑わされず自分の正しい判断で行動しようとする。【技能】

8 本時の学習指導過程

人権教育上の配慮

	学習活動と主な発問	・予想される生徒の反応	指導上の留意点等 評価の観点
導 入	1 アンケート結果について考える。	・各項目についていじめと考 えている人が多い。 ・どちらでもないと思ってい る人がいる。	何を学習するのかという期 待を持たせ、発言しやすい 雰囲気をつくる。
	2 資料の登場人物や条 件・状況について確認す る。		条件・状況を説明し、主人 公の立場で考えられるよう にする。

	<p>3 範読を聞き、資料について考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>Aさんにその場しのぎの言葉をかけて、走って逃げたときのわたしの気持ちはどのようなものだったのだろうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ の発問について考え、発表する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>Aさんの人柄を知ることがようになって、わたしはどのようなことに気付いたのだろうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ の発問について考え、ワークシートに記入する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>大切なことに気付いたわたしは、友人にどんなことを言ってあげたらよいだろう。</p> </div> <p>4 . 役割演技をし、発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ Aさんと一緒のところを見られたくない。 ・ 悪口を言われたくない。 ・ 自分がぶつかってしまったので、何か言われるかもしれない。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 人の意見に左右されず、自分で相手を理解して、正しく判断し、勇気を持って行動することが大切だ。 ・ だれに対しても差別や偏見を持たずに、温かい心で接することが大切だ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 人の悪口は言わないほうがいいよ。 ・ 想像だけで人を判断したらだめだよ。 ・ 人のよいところを見つけていこうよ。 	<p>場面絵を使い、イメージしやすくする。 資料を自分のこととして考えることができたか。 (発言)</p> <p>偏見や差別を生みやすい人間の弱さを主人公の心情に共感し、自覚させ、公正・公平の大切さについて考え、発表させる。 【価値・態度】 主人公に共感することができたか。【発言・ワーク】</p> <p>思い描いていたAさんと、実際のAさんの印象の違いから起きるわたしの心を汲み取らせる。 ワークシートに記述する時間をとり、考えを整理させる。 差別や偏見を持たずに自分で判断、公正・公平な態度で他者へ伝えることができるようにワークシートに考えをまとめてから役割演技をさせる。 【技能】 否定的な意見ではなく、肯定的で、正しい判断のもとに行動することの大切さに気付けたか。 【発表】 今後の生き方に生かせるよう、実践意欲を持たせる。</p>
<p>終末</p>	<p>5 . 教師からのメッセージを聴く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 差別や偏見を持たずに自分で正しく判断するように心がけたい。 	<p>断片的にならないように、余韻を持たせて終わりとする。</p>

9 評価の観点

他者の意見に左右されず、公正・公平で差別や偏見を持たずに自分で判断することの大切さを感じ取ることができたか。

10 他の教育活動との関連

- ・人間関係アンケート（生徒指導）
- ・生活の中での言動の見届け、指導（生徒指導）
- ・学級通信等による道徳の振り返り、情報の発信（家庭との連携）

11 板書計画

シカト

組 番 氏名 _____

組のAさんいるでしょ？そう、その子。内緒だよ。
だれにも言わないでね。
Aさんって、性格、すごく悪いの……。だってね、わたしのこと、
悪口ばかり言いふらすってうわさ流したのよ。
ムカつくよねー。ね、嫌な子でしょう？

より

より

感想（今日の授業の中で感じたこと、大切だと思うことを書きましょう。）

8 中学校第2学年 数学科学習指導案

1 単元名 一次関数の利用

2 単元について

(1) 教材観

この単元では、比例、反比例と同様に具体的な事象における二つの数量の変化や対応を調べることを通して、一次関数について考察する。第1学年で学んだことを基に、一次関数の特徴を、表、式、グラフでとらえるとともに、それらを相互に関連付けることで、一次関数についての理解を深める。

また、日常生活や社会には、関数関係としてとらえられる事象が数多く存在する。ここでは、一次関数を用いて具体的な事象をとらえ説明することを指導する。事象をとらえ説明する際は、何を明らかにしようとするかという目的意識をもち、事象をどのように解釈して数学の対象にするのかを明確にし、目的に応じて表、式、グラフを適切に選択し説明することが大切である。

(2) 生徒観

本学級は、学力は十分とは言えない生徒が大半を占める。平成28年度埼玉県学力・学習状況調査では、正答率が53.2%(県平均60.1%)、特に関数領域においては48.9%(県平均59.9%)と正答率に10%以上の差がある。

数学に対して意欲的に取り組む生徒が多く、授業では積極的に挙手する姿が見られるので、互いの意見や考えを認めながら、問題解決方法を導く過程を重視していく。

(3) 指導観

平成28年度埼玉県学力・学習状況調査では、関数領域の正答率が高くなかったが、その中でも「グラフを利用して y の変域を求める問題」の正答率が19.4%で、苦手としている生徒が多い。本時の授業で扱う「一次関数の利用」では、グラフを利用して問題解決の糸口をつかんだり、他者の意見や考えを聞いたり、話し合ったりすることで数学的活動の充実を図り、生徒一人一人の学力を伸ばしていきたい。

3 単元の目標

具体的な事象の中から二つの数量を取り出し、それらの変化や対応を調べることを通して、一次関数について理解するとともに、関数関係を見出し表現し考察する能力を養う。

- (1) 事象の中には一次関数としてとらえられるものがあることを知る。
- (2) 一次関数について、表、式、グラフを相互に関連付けて理解する。
- (3) 二元一次方程式を、関数を表す式とみる。
- (4) 一次関数を用いて具体的な事象をとらえ説明する。

4 単元の評価規準

観点別学習状況の評価規準			
数学への 関心・意欲・態度	数学的な 見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などに ついての知識・理解
身の回りの事象の中から、一次関数を見出し、それを利用して、問題を解決する方法を考えようとしている。	身の回りの事象の中から、一次関数を見だし、それを利用して、問題を解決する方法を考えることができる。	問題を解決するために見いだした一次関数を、式やグラフなどに表すことができる。	身の回りの事象には、一次関数と見なすことができるものがあることを理解している。

5 単元の計画と評価計画

節	指導時間	評価計画
1 一次関数とグラフ	10 時間	<ul style="list-style-type: none"> ・変化の割合について理解することができるか。 ・一次関数 $y = ax + b$ のグラフの特徴を理解し、そのグラフを描くことができるか。 ・一次関数のグラフから、その関数の式を求めることができるか。
2 一次関数と方程式	3 時間	<ul style="list-style-type: none"> ・二元一次方程式のグラフを理解し、そのグラフを描くことができるか。 ・連立方程式の解とグラフの関係を理解し、2 直線の交点を求めることができるか。
3 一次関数の利用	4 時間 (本時 4 / 4)	<ul style="list-style-type: none"> ・事象の中から一次関数を見出し、一次関数を用いて問題を解決することができるか。

6 人権教育上のねらい (普遍的な課題 「コミュニケーション能力」)

他者との学び合いや対話を通して、自分の思いや考えを適切に伝え合うことのよさに気づき、人間関係づくりの基礎を身に付ける。

7 人権教育上の視点

- (1) 「考える」「話す」「聞く」ことが、他者とのコミュニケーションの基礎であることを理解する。(知識)
- (2) 他者の権利を侵害することなしに、自分の思いや考えを適切に伝えることができる。(技能)

8 ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりについて

「参加の促進」に配慮して授業を行う。

9 本時の学習と指導

(1) 目標

【考】身の回りの事象の中から、一次関数を利用して、問題を解決する方法を考える。

【技】グラフを活用し、他の人の意見や考えを聞いたり、話し合ったりすることを通して、問題を解決する。

(2) 展開

人権教育上の配慮

段階	学習活動	学習内容	指導・評価 ユニバーサルデザインの視点
導入 5分	1 携帯電話の料金	携帯電話の料金は、どのようにして決まるか考える。	・データ通信や通話料金，定額サービスなど，様々な料金形態があるが，本時の学習では，通話料金に着目させる。 他者の意見をしっかりと聞いたり，自分の考えを発表したりさせる。 (知識)
展開 40分	2 料金プランの特徴 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">携帯電話 おすすめの料金プランは???</div> プランを1つ説明する。(個人)	列ごとにプランを1つ選び，そのプランの特徴を考え，記入する。	<ul style="list-style-type: none"> ・通話時間を仮定するなどして，基本料金に含まれる通話料金が何分なのか考えさせる。 ・それぞれの考えを書く時間を確保し，一人一人を大切に学習指導を行う。 ・必要に応じて，表，グラフ，式などを使わせる。 3人程度のグループでの活動を通して，積極的に意見を交換させる。 「考える」「話す」「聞く」ことが，できるように適宜指導する。(知識) 一次関数を利用して，問題を解決する方法を考えている。 特徴や長所を観点として他のグループの説明を聞くことで，適切に伝え合うことができるようにさせる。 (技能) ・他のグループの説明を聞いた上で，グループとしての意見をまとめさせる。
	その特徴をわかりやすく説明する方法を考える。(グループ)	3人程度のグループで，わかりやすい説明方法話し合う。	
	他のグループの説明を聞き，情報を共有する。	グループごとに，プランを説明する。	
	3 おすすめプラン おすすめプランの長所を説明する。(グループ)	それぞれの特徴から，おすすめプランを決め，長所を説明する。	
4 プランの比較 (個人) AとBを比較 BとCを比較	もっとも安い料金プランとその条件について考える。	グラフを活用し，他の人の意見や考えを聞いたり，話し合ったりすることを通して，問題を解決している。	
まとめ 5分	5 グラフの有用性 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">グラフを使うと，式や表よりも，料金やその条件が見てすぐわかる。</div>	グラフを活用するよさを考える。	・3つのプランをまとめたグラフを提示し，視覚的にわかりやすくする。

携帯電話 おすすめの料金プランは???

2年 組 番 氏名()

あなたは携帯電話ショップの店員です。お客様に料金プランの説明をしなくてはなりません。料金プランは、下の3つです。

Aプラン

基本料金4600円に加え、
通話時間1分ごとに20円
かかります。

Bプラン

基本料金3800円に、
1200円分の通話料金が
含まれます。
通話時間1分ごとに40円
かかります。

Cプラン

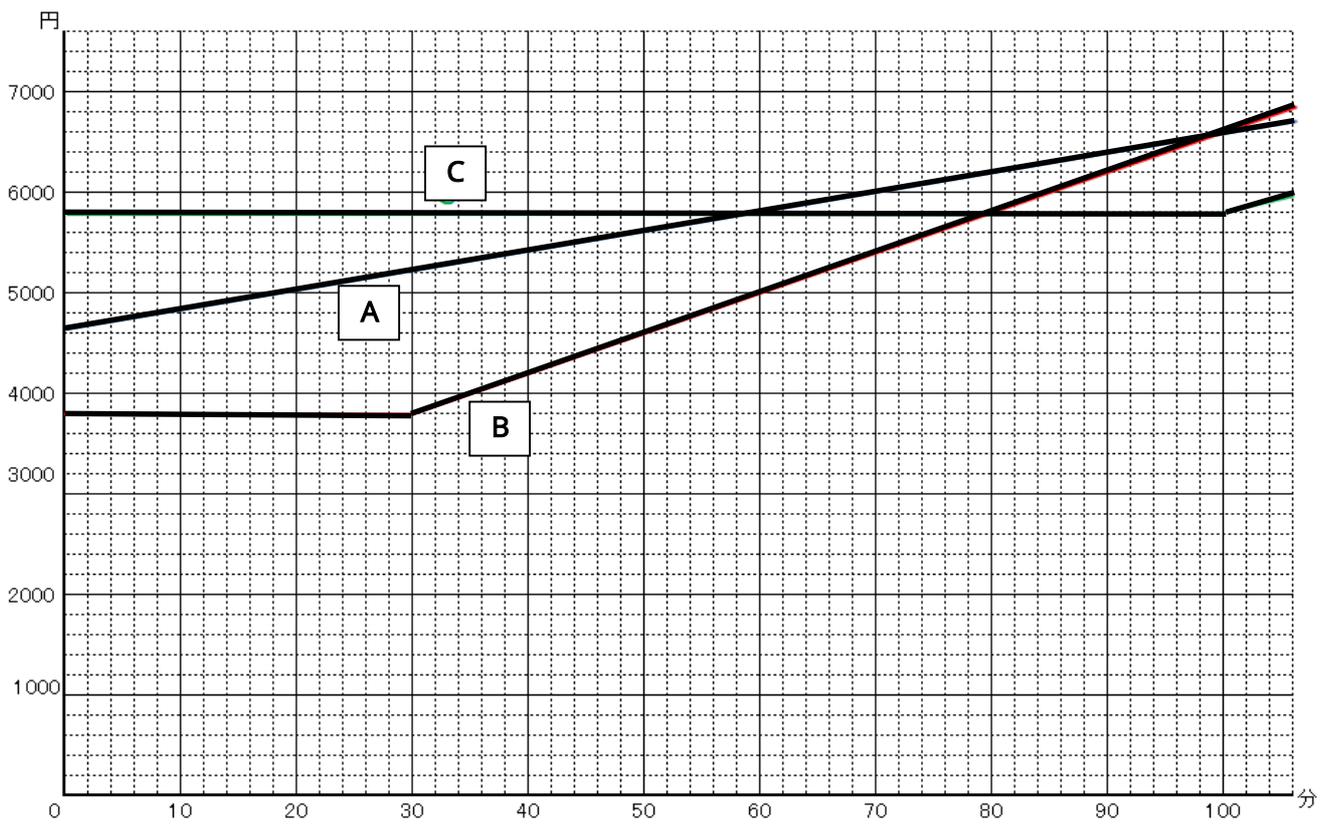
基本料金5800円に、
3000円分の通話時間が
含まれます。
通話時間1分ごとに30円
かかります。

()プランについて説明します。このプランの特徴は…

お客様にわかりやすく説明するためには、どうすればよいでしょうか。

- 1 ()プランの特徴は…

- 2 ()プランの特徴は…



9 中学校第3学年 社会科学習指導案

- 1 単元名 「ちがいのちがい」（個人の尊重と日本国憲法）
「人権感覚育成プログラム（学校教育編）」P219 参加・参画9 -

- 2 単元設定の理由

- (1) 教材観

本単元は、日本国憲法で保障されている基本的人権が現代社会の中で実現しているかどうかを具体的な社会生活と関連付けて考える単元である。単元の学習活動を通して、基本的人権に関わる問題を理解したり、社会の発展に伴う新しい人権問題をどのように解決していくべきなのかを考えたりすることをねらいとしている。この単元で最初に「ちがいのちがい」の学習を通して人権について考えることを出発点として、人権拡大の歴史や日本国憲法の基本的原理を学習して、人類の歴史の中で、不条理な差別・不平等に対して変革する意識をそだてるように設定されている。

18歳選挙権が実施された状況下において、前にも増してこの単元の重要性は明確である。日本国民としての基本的人権の尊重の意識を醸成し、公民としての資質の育成を図りたいと考えてこの単元に設定した。

- (2) 生徒観

明るく活発な生徒が多く、学習意欲もある。また、教科書や資料集などを使ってワークシートを進める作業学習において全体的に真面目に取り組んでいる。また、討論形式は、1、2年生で道徳などの授業場面で積極的に活動している。男女の仲も良い。ただし、学級集団アセスメントにおいては個別には様々な課題を抱えている生徒の存在が認識されており、担任を核として学年で対応している状況もある。

- (3) 指導観

個人で思考し、生活班で分類し、生活班で分類理由を討論して作成する。その後、各生活班で発表をおこない、もう一度個人で振り返り今後の学習に生かすように進めていく。この過程で個人の考え方の多様性に気付き人権への理解を深めていけるように支援していく。

また、主権者教育の一環であるため、教育基本法第14条第2項に基づき政治的中立性に十分に配慮して、公正中立的な立場で指導を行うよう多面的、多角的に考え自己の主張を形成し他者の考えを理解させるように支援する。

- 3 人権教育上のねらい（普遍的な課題「個人の尊重」）

人権に対する理解を深め、人権尊重への視点を醸成する。

- 4 人権教育上の視点

- (1) 人権の考え方への関心を高め、文化や個性の多様性について理解する。 (知識)
 - (2) 具体的な事例について、人権尊重の視点から検討し話し合うことを通して、自他の人権について考え、人権意識の基礎を身に付ける。 (価値・態度)

5 単元の目標

日本国憲法の制定の意義について、基本的原理を中心に理解させるとともに、国民主権との関連で天皇の地位を理解させる。

歴史的分野の学習内容を踏まえて人権思想の歴史や憲法における平和主義について日本のあり方を追究させて考え、その意義を理解させる。

6 指導と評価の計画（5時間扱い 本時1 / 5時）

時	主な学習内容	学習目標	評価規準
1	ちがいのちがい	<ul style="list-style-type: none"> 文化や個性の多様性などを通して、人権の考え方の理解を深める。 グループ討議を通して自他の人権意識について考え、人権意識の基礎を身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な事例を通して文化や個性の違いに気づき、自他の尊重について関心をもつ。 (関心・意欲・態度) カードの内容を自らの判断で分類するとともに分類の結果や理由についてグループで討議し、多面的・多角的に考察している。 (思考・判断・表現)
2	人権の歴史	<ul style="list-style-type: none"> 人権思想がどのように社会で拡大してきたか年表や資料などを基に理解をする。 大日本帝国憲法と日本国憲法の比較を通して日本の人権思想の芽生えと発展を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 人権思想の拡大について、教科書の資料などから、必要な情報を選択し、読み取ったことを短文や図表にまとめている。(技能)
3	立憲主義と日本国憲法	<ul style="list-style-type: none"> 日本国憲法の構成などの資料を基に、立憲主義、三権分立の意義、日本国憲法の制定過程と基本原理を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本国憲法の構成や内容のあらまし、日本国憲法施行までの流れを、年表・資料などから歴史的な意義を踏まえて読み取り、適切に表現している。(技能) 立憲主義、三権分立の意義、日本国憲法の基本原理について理解し、その知識を身につける。(知識・理解)
4	国民主権と天皇の地位	<ul style="list-style-type: none"> 国民主権との関連で、天皇の地位と国事行為をはじめとする公的活動について理解する。 国民主権の意義を踏まえ、将来の主権者として政治への関心を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 国民主権の意義を踏まえ、憲法改正の制度などを手がかりにしながら、将来の主権者として政治への関心を高めている。 (関心、意欲、態度) 国民主権と天皇の地位、天皇の国事行為の内容と特色、その他の天皇の公的活動について理解し、その知識を身につけている。 (知識・理解)

5	日本の平和主義	<ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法に示された平和主義の考え方や、現代の平和に関する諸課題について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書や新聞記事などから日本の安全と世界平和に関する事象を選び、その背景や解決への道筋について考察し、その過程や結果を分かりやすく表現している。（思考・判断・表現） ・日本国憲法に示された平和主義、自衛隊と日米安全保障条約、非核三原則の意義について理解し、その知識を身に付けている。（知識・理解）
---	---------	--	--

7 本時の学習指導

(1) 本時の目標

文化や個性の多様性について考えることを通して、人権の考え方への認識、関心を高める。（関心・意欲・態度）

具体的な事例について、人権尊重の視点から検討し、話し合うことを通して、自他の人権について考え、人権意識の基礎を身に付ける。（思考・判断・表現）

(2) 本時の展開

人権教育上の配慮()

段階	学習活動	教師の働きかけ	指導上の留意点(○) 評価()
導入	1 本時の学習内容と学習の流れをつかむ。	・教科書「やってみよう」を説明し、最初の活動を確認する。	○「ちがいのちがい」について例を挙げて補足する。
展開	2 個人の判断で分類を行う。 3 生活班で話し合い 班の意見をまとめる。(1班4人) 4 発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・はじめに個人で「やってみよう」を行わせる。時間は7分とする。 ・班ごとに話し合い、班の意見をまとめさせる。 ・司会は班長で、発表者は各班で決定させる。必ず決定理由を考えさせる。 各班の代表者に各カード「○×？」について判断結果とその理由を発表させる。(価値・態度) ・話し合いと発表を踏まえて、再度自分の考えをまとめさせる。 考えが変わったカードがあれば変わった理由を短文にまとめさせる。(価値・態度) ・変わったカードは挙手させて発表させる。 	他者の考えを考慮しながら多面的・多角的に考察しているか。 ○司会やまとめの用紙に記入する係を決定する。 ○自分の考えの変容を発表内容に盛り込みよう指示する。

			○2、3名に発表させる。
まとめ	5 振り返る。	・ワークシートで授業の感想をまとめさせる。 人権とは、人間が長い歴史の中で生み出した「知恵」であることに触れる。(知識)	文化や個性の違いに気づき、自他の尊重について関心を持てたか。

8 ワークシート

ちがいのちがいについて

組	番	氏名
---	---	----

1 教科書p34～35のトライを熟読する。

2 カードにかかれていることが「あってよいちがい」なる○、「あってはいけないちがい」なる×、どうしても判断がむずかしことならば?にわけてください。記入は数字で記入しなさい。

○の場合

理由

×の場合

理由

?の場合

理由

-1-

3 班で話し合いをしてカードを分類しなさい。また、発表時に判断理由を説明できるように準備しなさい。

○の場合

理由

×の場合

理由

?の場合

理由

4 話し合いが終わったら、発表用の掲示紙にカードを分類してのりで貼り付けてください。

-2-

10 高等学校第3学年 公民科学習指導案

1 単元名：現代の家族とその課題

2 生徒の実態について

本校は総合選択制の高校で、本授業も選択授業であり、生徒は学年全体の希望者が集まり授業を受けている。

家族や少子高齢化、男女共同参画社会に関しては保健の授業や家庭科の授業で、ある程度の知識を持っているが、生徒の既存知識にはかなりばらつきがあると想定される。

3 単元について

日本は、性別役割分担意識、労働に対する意識、家事労働に対する意識、企業の意識等が関係して、女性が働きにくい、男性が育児に関わりにくい、つまり性別によって生き方が固定されやすい社会となっているといえる。これらの状況を統計資料から生徒自身が気づき、社会の望ましい在り方について考えを深めさせる。男女共同参画社会の意義を理解し、その視点から男女の対等な在り方と相互の理解・尊重・協力の大切さについて理解させ、将来の自らの生き方について考えさせる。

4 人権教育上のねらい（女性）

男女共同参画社会や個人が自分らしく生きることのできる社会の実現のためには、どのような課題があるかを理解する。知識構成型ジグソー法[※]による協調学習を通して、性別による違いや様々な違いを超えて、他者を尊重する態度を養う。

※「知識構成型ジグソー法」は、東京大学 大学発教育支援コンソーシアム推進機構 三宅なほみ氏が考案した授業手法です。

5 人権教育上の視点

- (1) 家庭、企業、社会の在り方が関わりあって男女の格差が生じることを理解する。(知識)
- (2) 男女共同参画社会の実現を自らの問題として、考える。(価値・態度)
- (3) 自らの意見を適切に表現し、相手の意見にも耳を傾け協力して課題に取り組むことができる。(技能)

6 単元の目標

家族形態の変化と少子高齢化の進行のなかで家族の抱える諸問題を考察し、家族の在り方について自分なりに考えさせる。

7 本時の学習について(2 / 2時間)

(1) 目標

諸資料を適切に活用し家族の役割について考えるとともに、男女共同参画社会に係る問題点を理解し、望ましい社会の在り方について自ら考え、学んだことを文章で表現する。

(2) 展開

◎人権教育上の配慮

段階	学習内容・活動	指導上の留意点 (○) 評価 (☆)
導入	1 男女共同参画社会実現のために必要なことを書く。 2 今日の学習の流れについて理解する。 エキスパート活動へ移動	○今時点で書けることを書けばいいことを伝える。 ○男女の格差について自分なりに表現させる。 ○本日の授業が男女共同参画社会についての学習であることを伝える。

	<p>展開</p> <p>3 【エキスパート活動】 各自資料を読み、話し合いを通じて理解を深め、設問に解答する。</p> <p>4 ジグソー活動へ移動</p> <p>5 【ジグソー活動】 ジグソー班に再編成し、エキスパート資料をそれぞれ説明する。 ジグソー班で質問に取り組み、まとめる。</p>	<p>○協調学習についての簡単な説明、本時の活動内容について説明する。 グループ分け</p> <p>○机間巡視を行い、活動を促す。 ○ジグソー班の班番号を配付する。 ◎一人で課題に取り組むのではなく、班の全員で協力して、資料を読み課題に取り組むように促す。 (技能)</p> <p>○ジグソー班への移動を速やかに行うように促す。</p> <p>○ジグソー活動の内容について説明を簡潔に行う。 ○エキスパート活動の内容を適切に報告し、他の報告もきちんと聞くように声掛けする。すべての資料を組み合わせて課題に取り組むように促す。(技能) ◎家庭、企業、社会の在り方が関わりあって男女の格差が生じることを理解させる。(知識)</p>
<p>整理</p>	<p>6 【クロストーク】 各班の発表を聞く。</p> <p>7 発表を踏まえて、男女共同参画社会実現のために必要なことを各自で書く。</p>	<p>◎自分たちの考えを発表するだけでなく、他の班の考えも聞くことで、考えを深める。(技能)</p> <p>○課題に取り組むように指示し、終わったらアンケートを記入させる。 ◎ これまでの学習を基にして、自分の考えをまとめる。社会の在り方が自分の生き方にも関わってくることに気づき、望ましい社会の在り方について自分の言葉で表現させる。(価値・態度) ☆望ましい社会の在り方について自ら考え、学んだことを表現できたか。</p>

人権教育学習指導案集

～平成28年度の実践～

発行年月 平成29年3月

発行・連絡先 埼玉県教育局市町村支援部人権教育課
さいたま市浦和区高砂3-15-1
TEL 048-830-6892

<http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/f2218/>



埼玉県のマスコット コバトンとさいたまっち